

姉妹都市ヘンダーソンビル市を

訪

問



アメリカテネシー州ヘンダーソンビル市―湖岸線が四十二キロにも及ぶ、オールドヒッコリー湖に面した風光明媚な街と姉妹都市の提携を行ったのが、今から九年前の昭和五十八年五月十八日。当時の高部通正市長を団長とする一行がヘンダーソンビル市を訪れ、姉

妹都市の提携調印を行いました。その後、都留・ヘンダーソンビル友好委員会を通じて両市の交流が始まったのです。昭和六十三年にはヘンダーソンビル市長をはじめとする市の幹部で構成された公式訪問団が都留市を訪れました。この時、将来の両市の交流について二年

に一度の相互派遣、文化の交流など、具体的な話し合いがもたれました。

平成二年四月の青年層を中心とした公式訪問団がヘンダーソンビル市を訪問した際には、同行した桂高等学校は現地の二校と姉妹校の調印を行いました。これにともない翌年三月に桂高校から姉妹校派遣団がヘンダーソンビル市を訪問、姉妹校で授業に参加するなど、新たな交流の一ページを刻みました。

事長)が昭和六十二年に引き続き、「第二回ちびっこ海外使節団」をヘンダーソンビル市に派遣しました。一行はこの四月から中学生になった十五名と青年会議所のメンバー五名。三泊四日のホームステイを通じてアメリカの文化や生活環境に肌で触れ、真のアメリカンライフを満喫してきました。現地では中学校の授業にも参加し同世代の子供たちと同じ机で学ぶ貴重な体験をしました。また、都留市の子供たちはおりがみや習字の実演などを通して、伝統ある日本の文化を紹介、中でもおりがみは大人気で、ヘンダーソンビルの子供たちは真剣な眼差しで見つめていたそうです。

これからの未来を担って行く子供たちのこうした交流の中から、真の友情が培われ、都留市とヘンダーソンビル市の友好関係の裾野を広げることによって、人と人との本當のふれあいを深めていくことが国際交流の原点なのです。

今年の七月には桂高校にヘンダーソンビルの高校生が、そして、来春には、姉妹都市提携十周年を記念して、公式訪問団が都留市を訪れる予定になっています。

